高校生・ interview

学びのなかで 変化したこと 見つけたこと

取材·文/松井大助 撮影/山本 斉(10p)、石中 仁(11p)、

松本崇志(12p)、竹内弘真(13p)

方が、その歴史や地理、

観測でわかっ

別の回では、

南極観測に行った講師

の方が、 うになりました。 ロナウイルスのプラス面とマイナス面 スもあった、 いたから解決に向けて協力し出すプラ 等が顕在化したこと、でも問題に気づ を話し合いました。そのあとで講 大学って深く学ぶんだなあと思いまし 普段はそこまで物事を追究しないので ある回では、 自分も社会のことを考えるよ コロナで社会のいろいろな不平 と話してくれたんです。 生徒同士で「新型コ

学びのなかでつかんだものを

お聞きしました。

まさに体感中の高校生と、

本人に何をもたらすのでしょうか。

触れられるという経験は、

その体験を経た大学生に、

高校生のときに

高校と大学が協働した学びに

ざまな講座を学校で受けられる「高 でに10以上の講座を受けてきました。 校でそんな体験はなかなかできないと 大連携クラス」が新設されました。 印象的だったのは国際教養講座で 私はこのクラスを希望し、 松市立高校では、 た年度に、 大学の先生のさま 私が入学し 今ま

研究をするんだ、と感じました。

先生自身が、 用例を紹

企業と組んで、

間伐材

一酸

化

炭素濃度

増

加の問題

解決策となる森林資

介してくれました。

師

を燃料に発電する研究をしていたんで

大学では社会を変えるような

べるようになり、 う力にもなっています。 勉強することで発見できるのかな」と。 る意識も変わりました。 れるようになりたいんです。 心理学に興味があったので自分でも調 こうしてみたい、 ことが起きているんだ、とか、 えていましたが、 科書の内容を嫌でも覚えるもの」と考 ました。 講座を受けるなかで、 人の気持ちに寄り添って支えら 勉強を「がんばろう!」と思 その先の夢は心理カウンセ とか、 行きたい大学も見つ 今は「社会でこんな そういうのを 以前は「教 勉強に対 そうした 自分は す

小松市立高校の高大連携

2020年度より普通科の1クラスに「高大 連携クラス」を新設。公立小松大学をはじ めとする石川県内外の大学から講師を招 き、生徒が大学の出張講義を継続的に受 けられる環境を整えた。ねらいは思考力や 学習意欲の向上。複数回の国際教養講 座のほか、国語、数学、理科、家庭科、保健 体育などの講義が行われてきた。同校のホ ームページでも講義内容を発信中。

長谷川さんにとっての高大連携

- ●講座で物事のプラス面とマイナス面を考 えたりするなかで、教科書から学ぶだけでな い、自分で追究する面白さを体験した。
- ●大学の「社会を変える研究」に惹かれた。
- ●自分で興味のあることを調べるようにな り、行きたい大学と学部が見つかった。
- ●友達と将来のことを話すようになり、心理 学、看護、経済など、目指す分野は違うけれ ど目標をもって勉強しているのは同じ仲間 と、一緒にがんばるようになった。

高大連携を後輩に伝えるなら

自分が興味をもてることを発見でき、この先 何を学びたいかを考える機会になります。目 標ができて勉強をがんばる子も多く、その環 境にもやる気をもらえます!



高大連携講座の一場面。南極観測や環境 対策など社会に関わる研究実践にふれた。

01

高校で何講座も大学の講義を受けて 自分たちで社会のことも考えて。 私のなかで勉強する意味が変わったんです

小松市立高校(石川・市立) 2年生 長谷川なつ美さん



ばんばん意見を出すその姿から学んだし 東京の大学生とチームを組んだ探究活 分にはない価値 野翔輝さん 観も教えてくれた

動

吉賀高校(島根・県立) 3年生

下

02



2年次の発表資料。後輩たちの進路の 参考になる動画を作ることを目指した。



2、3年次、下野さんたちは地元の働く 人を取材し、動画にすることに挑戦。



1年次の探究活動、大学生とのグループ ワーク。学生の積極的な姿が刺激に。

てくださいました。

意見をばんばん出してくれて、 いませんでした。 かったのですが、それでもオンラインで 自 この3年間の活動で、 芸談に乗ってもらいました。 分たちで動く」ことをあまりして でも大学生が来て、 僕らはこ 率先し 最初、

がまた吉賀町に来て、 た海浜公園を取材。 京に行き、 いかなど話し合い、 チックや宿泊施設を回 にテーマパークを作れないか」と考え、 究活動で、 もオンラインでほかに何を調査した 査をするため、 京の大学生の皆さんとは、 生の夏に出会いました。 大学生がアポを取ってくれ 僕らのグループは 一緒に地元のアスレ 10月には僕らが東 2月には大学生 りました。 成果発表を見 「吉賀町 その

観

たと思います。

響で大学生が吉賀町には来られ 3年生の探究活動は、 コロナの な

いう自分の進路も見つけることができ

て、 僕も一度、 所を作りたいな、 たくなったのです。 志望する大学は関東にあります。 地域の子どもと大人がつながる場 外から吉賀町を眺めてみ と思っています。 いずれは戻ってき

て動くのを見て、「こういうふうにやる

吉賀高校の高大連携

吉賀町での課題発見(1年)、課題解決(2 年)、課題発展(3年)に挑む探究活動を、 青山学院大学・法政大学と連携して展 開。高校生が大学生とチームを組み、吉賀 町と東京の2カ所で、探究テーマに関わる 人や施設を取材。高校生は、大学生の言 動からも学びながら、課題解決に取り組む。 また、1年間の集大成となる成果発表会で も大学生からフィードバックをもらう。

下野さんにとっての高大連携

- 人見知りだったが、大学生との交流で、 外との関わりを楽しめるようになった。
- ●大学生の「意見を出すところ」や「率先し て動くところ」を見習おうと思った。
- ●大学生を見習って自分から動くことで、 挑戦する力や、失敗から学ぶ力がついた。
- ●自分にはない視点をもつ大学生の意見 がきっかけで、地元の魅力に気づいた。
- ●将来やりたいことが見つかり、そのために 大学で勉強したいこともできた。

高大連携を後輩に伝えるなら

大学生と一緒に探究活動するなかで、自分 たちで動くことや、自分にはない価値観を学 ぶことができると思います。「自分が一番成 長できる時間」になるはずです。

戦する力」や「失敗から学ぶ力」がつい れたんです。そうして動くなかで、「挑 んだ」と知って、 僕らもアクティブにな

めにこの大学のこの学部で学びたい」と か前は特になかったのですが、 んです。 白くない場所だとずっと思っていたんで 魅力をもっと広めたくなり、「そのた がきれい」と外からの意見をもらえ 」も教わりました。 大学生からは 地 元の良さに気づくことができた でも「ここが面白い」「こんなに 将来どういう道に進みたいと 自 分にはない 吉賀町って、 吉賀町 価 面

Ш

て、



「色の変化で酸化還元を見る」講座。全 員が一人で実験を行うことに挑戦した。





青角 顔料であるプルシアンブルーを生成 し、酸化や還元による色の変化を確認。



大学のノート。身につけた知識を、調剤な どの実習に生かしていきたいという。

の授業では「こんなことまでできるん 析でPCRの機械を使ったりと、 が教えてくれて、 加しました。 だ」とワクワクしました。 に打つことを体験したり、 康・医療コース」。 きだったので、やってみたいと思いました。 大学で受けられるのです。 1年生のときに受講したのは「健 高校生が5~6回の科学講座を 大学の「基礎力養成講座」に参 夏休みから11月にかけ 2年生のときに、 私自身、 注射器を腕モデル 理科の先生 DNAの解 科学が好 大学

象の理屈を、

身につけた知識で理解で

きると、

物事がより鮮やかに見えて

とどうつながるかを考えるんです。

現

するのではなく、 うになりました。

実際に起きた現 教科書をただ暗記

科学コース」。 達成感がありました。 化で酸化還元を見る」という講座で 配化や還 ·ではない実験を一人で全部できて、 流を流したりして、 2年生のときに受講したのは「総合 複数の試薬を測って混ぜたり、 元を確認するのですが、 思い出深いのは しかも、 色の変化から 「色の変 自分 簡

がる面白さを、

私も子どもたちに伝

際に起こる現象と、

習ったことがつな

えられたらいいな、

と思っています。

塾講師のアルバイトもしています。 を助けられるようになりたいのです。

実

を目指しています。

理科の力で、

今は薬学部で勉強し、

薬の研究者

きて、勉強するのが楽しくなりました。

界がわっと拓けたんですよ。 げさに聞こえるかもしれませんが、 て線になるように理屈がわかり、 化還元を学んだら、 目で現象を確かめた後、 点と点がつながっ 高 |校で酸 世 大

践するだけでなく、 識を身につけてもいいんだ」と思うよ おかげで「知識を身につけてから実 実践してから知

千葉大学の高大連携

「次世代才能支援室」が、理系人材養成 の高校生向けプログラム (3コースの基礎 力養成講座や課題研究支援等)を開発・ 運営。千葉県や東京都の高校と連携し、 科学に関心がある生徒の発掘と育成を進 めている。また、「高大連携支援室」が、全 国の高校生にとっての研究発表の場とな る高校生理科研究発表会を開催。今後の 高大連携についての相談窓口も務める。

齋藤さんにとっての高大連携

- ■高校にない器具や機械を使って学ぶこ とができ、大学の研究の面白さを感じた。
- ●実験で起こる現象を体感。それらの現象 を理解しようと知識を学ぶようになった。
- ●講座で大学に通い、サポート役の大学生 と話もするなかで、「こんな勉強や生活をし たい」という志望動機が固まった。
- ●大学生の今、コロナ禍で実習が制限さ れ、講義が多い状況だが、その知識が今後 に生きると思えるから真剣に学べている。

高大連携を後輩に伝えるなら

参加するか「悩んでいる」としたら、不安以 上に「やりたい」気持ちが既に生まれている からだと思うんです。飛び込めば、すごく豊か な経験ができると思います。



考に空港に行ってまた調べ、 て再提出しました。 その後 「航空ビジ

長していきたいと思います。 要な知識を身につけ、 管理コースへ進みます。

仲間と共に 航空業界に

偶然、見つけたのです。 線の誘致プランを自分で考え提案す ライン授業を受けたあと、空港の良い 点や課題を調べ、 美林大学のホームページものぞいていて 応募したプログラムは「航空ビジネ 空港マネジメント編」。 世界とつながる新路

ら促されてやっていて、「今の学力では

(きではありませでんした。

先生 勉

くてたまらなくて、 取り組んだことはなかったのに。 かったんです。 必死にレポートを書きました。 3日間通い、 というものでした。 地元の空港に そのレポートでは賞を取れな 職員さんにも話を聴き 人生でこれほど熱心に 先生の講評を参 書き直し 悔し

ることを知ったのは、 航空・マネジメント学群のある桜 のプログラムが桜美林大学にあ 私は航空業界に憧れていたの 高校3年生の夏 オン

が、 たんです。 の先生から学べるチャンスに出合えた いました。 桜美林大学は厳しいよ」とも言われて えたことが自信にもなりました。 いましたし、 ディスパッチャー(運航管理者)を目 がんばる原動力になるのかな、 自然に勉強もがんばろうと思え でも、 私の場合、「好き」というの その取組で認めてもら 好きなことを専門

高校生が未知の分野を探究する「ディスカ バ!」というキャリア支援プログラムを、キャン ィスカバ!」という高校生向

桜美林大学の高大連携

パスまたはオンラインで展開。2020年に は、グローバル、SDGs、アート、音楽、航空、 観光などの70プログラムをオンラインで実 施、全国から約2800名の高校生が参加し た。また、2022年度入試より、総合型選抜 の一方式として探究活動の経験を評価す る探究入試「Spiral」を導入した。

長田さんにとっての高大連携

- 好きなことを学べるチャンスをもらえ、これ までの人生で一番がんばれた。
- ●結果を出せず悔しい思いも味わったが、 それをバネに「何がダメだったか」を考えて 行動すれば、次に生かせると学んだ。
- 「先生から教わる」だけでなく、「自分で調 べて質問して学ぶ」ようになった。
- ●大学でも自ら動き、オープンキャンパスの 運営団体に参加、気象サークルでも運営 に参画。そうした体験も学びになっている。

高大連携を後輩に伝えるなら

やりたいと思ったことをぜひやってみてほし いです。うまくいかない部分があっても、そこ からも学べることがあり、自分で必死に考え た経験が次につながります。



しているので、

運航管理も学べる整

「ディスカバ!」の長田さんのレポートの 一部。空港の写真も自分で撮影。



「ディスカバ!」プログラム例。今では長 田さんも学生スタッフとして提供側に。



大学では気象サークルにも所属。先輩 にたくさん質問しながら学んでいる。

04

好きなことを大学の専門家から学び 高校生が自力で探究するプログラム。 本気で学ぶことを知り、自信がつきました

桜美林大学(東京・私立) 1年生 **長 田 紗季**さん 北海道・旭川藤星高校出身

とができました。

こうした活動の

今度は準グランプリを取るこ

入れたのかなと感じています。

総合型選抜で桜美林大学に

高校時代、

正直に言えば、

ネスの世

